



米

中干し後の 管理と病害虫 防除対策



岡部営農経済センター
池田 昌行

中干し後は入水し、水が無くなっても1〜2日そのままにして、再び入水する間断かん水を繰り返します。根の張りを良くし、倒伏や秋落ち防止、登熟向上に繋がります。穂肥を施肥した時は、3日間湛水状態としてください。

《高温障害対策》

高温障害（乳白米）の発生を抑えるには、出穂後5〜15日に夜間通水して、ほ場内の水温を下げます。根の機能活力を維持し、呼吸作用の増加を抑えるため、こまめな間断かん水を行います。気温が35℃、夜温が25℃を超える日が続く場合は、かけ流しを行ってください。

《病害虫対策》

出穂期前後の病害虫被害は、米の品質や収量に影響します。紋枯病や穂いもち病、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネネットムシ、ウンカ、カメムシは、必ず防除しましょう。

【粒剤の場合】

リンバー粒剤 4 kg/10 a（収穫30日前まで）

【液剤の場合】

ディアナSC 5000倍

モンカットフロアブル 1000倍

150ℓ/10 a（収穫14日前まで）

※エバーゴブルプラス箱粒剤を使った場合は、紋枯病の防除は不要で、ウンカ、カメムシの防除をしてください。

《斑点米カメムシへの対策》

斑点米カメムシの加害を受けた米は等級を落とす大きな原因になります。斑点米カメムシは、イネ科雑草のイネヒエ、キシユウスズメノヒエ、畦畔や耕作放棄地のメヒシバに好んで集まります。イネが出穂すると水田に飛び込み、穂を吸汁します。出穂10日前までにほ場周辺の除草を行い、穂揃い期〜乳熟期にかけて2回防除しましょう。

カメムシ・ウンカ防除

1回目の防除を穂揃い期に行い、2〜3回目

は、前回散布から7〜10日後に散布します。日中暑い場合は朝か夕方に、雨が多い時は晴れの合間に散布しましょう。

※粒剤で散布する場合は、液剤散布より3日前に散布してください。

【粒剤の場合】

スタークル粒剤

3 kg/10 a（収穫7日前まで）

スタークル豆つぶ

250g/10 a（収穫7日前まで）

※穂いもち病と同時防除する場合は、イモチエー

スタークル粒剤 3 kg/10 a（収穫35日前まで）

スタークル液剤 1000倍

キラップジョーカーフロアブル 1000倍

150ℓ/10 a（収穫14日前まで）

※穂いもち病多発地区は、ブラシンフロアブル

1000倍（収穫7日前まで）と混用散布。

スタークル液剤 1000倍

150ℓ/10 a（収穫7日前まで）